

学業充実WGの検討状況と今後の方針

学業充実WGの目的・全体像

計3回の討議を通じて、学生アスリートの育成に必要な学業充実の施策案や日本版NCAAの求められる役割の素案をまとめます。

本WGの目的

日本版NCAAは、学業の充実等を通じて得られる教養及びスポーツ活動を通じて得られるコミュニケーション能力やインテグリティ等を持つ優秀な学生アスリートの育成に貢献し、また、日本版NCAAに加盟する大学の学生アスリートが社会から高く評価され活躍することを目指し、日本版NCAAが担うべき具体的な役割及び優先的に取り組むべき事項について検討する。

本WGの全体像

第1回
WG

「学生アスリートが置かれている環境・課題の整理」

第2回
WG

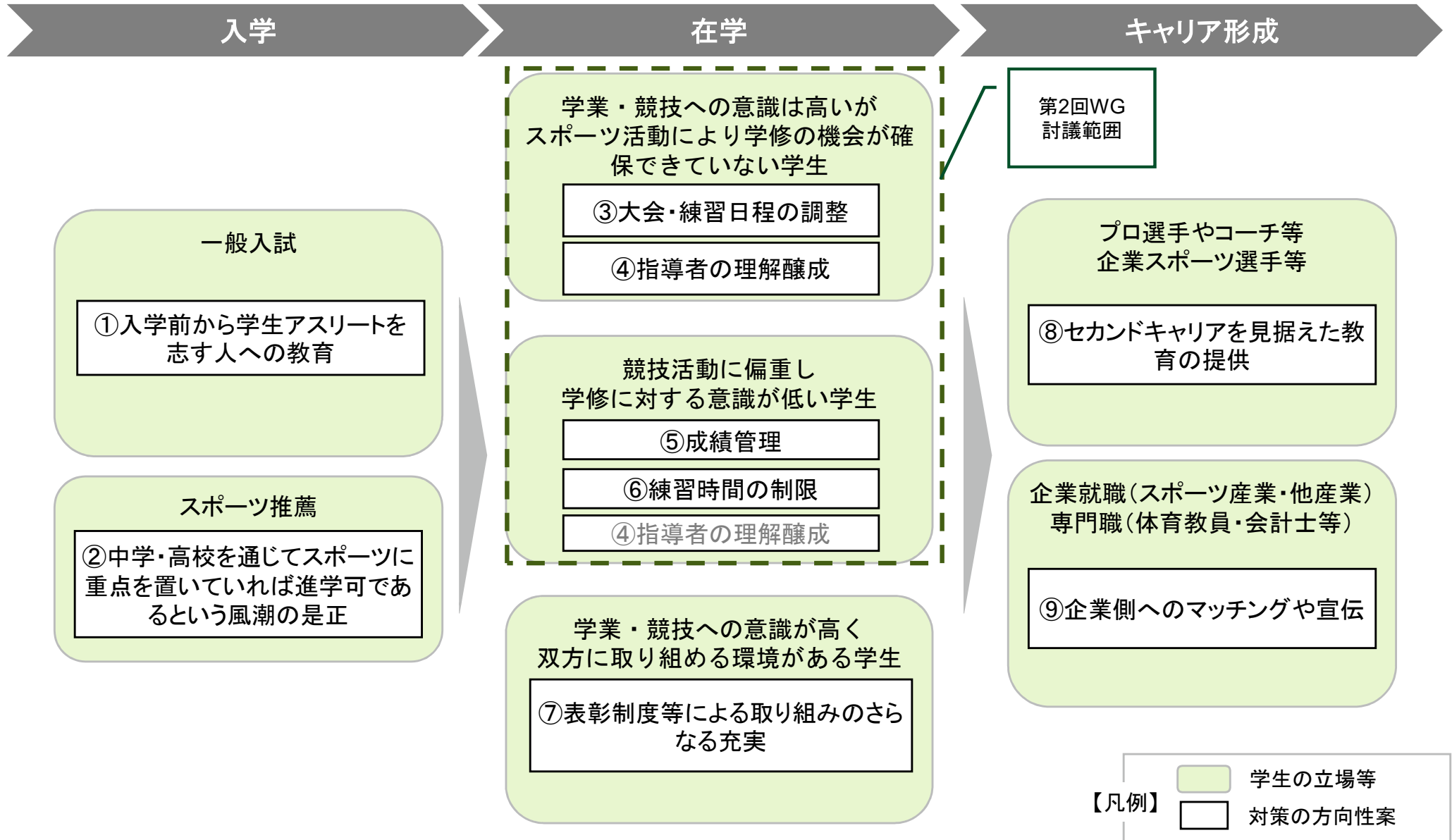
「在学中に実施すべき対策案と日本版NCAAの担うべき役割」

第3回
WG

「入学時・卒業時(キャリア形成時)に実施すべき対策案と日本版NCAAの担うべき役割」(予定)

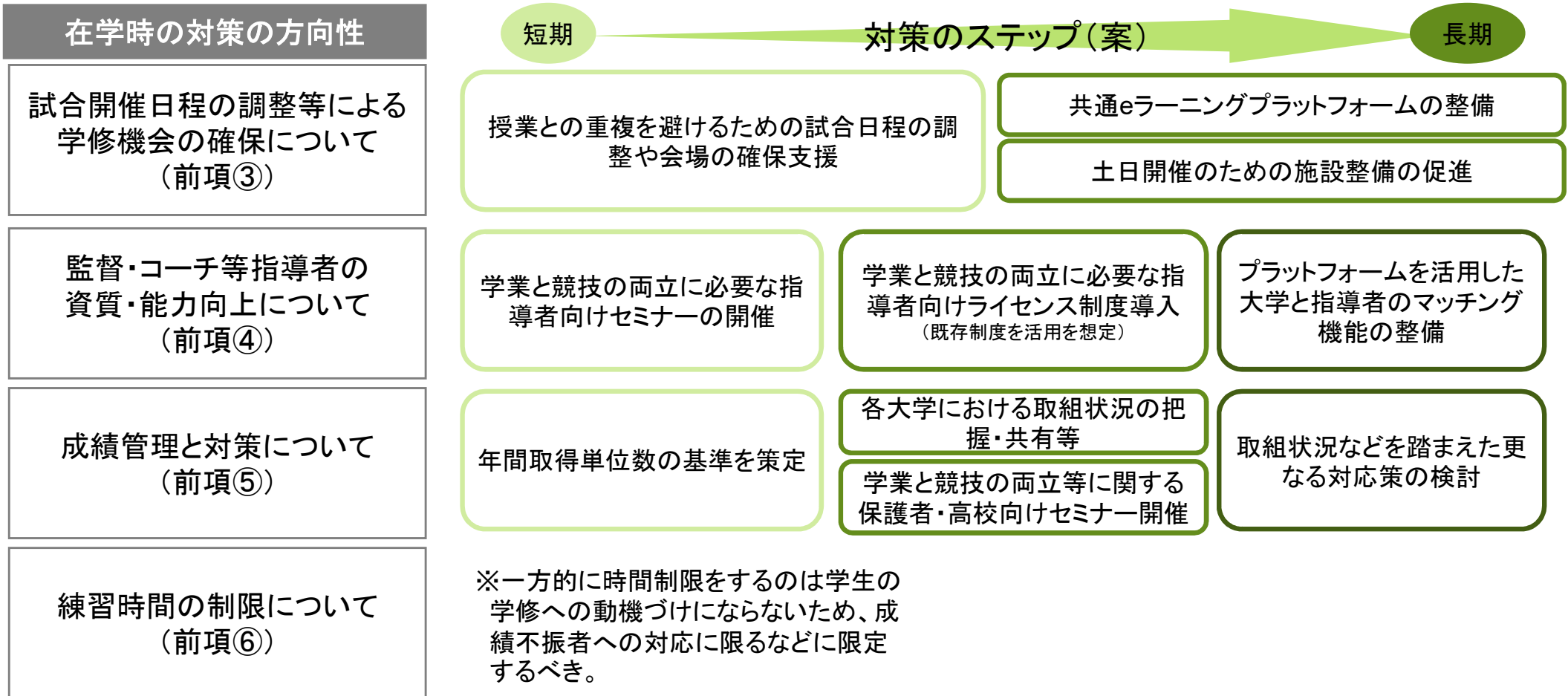
第1回学業充実WG「学生アスリートが置かれている環境・課題」の議論の整理

学生の意識(大学への入学方法や卒業後の進路等に起因)や置かれている環境に応じて求められる対策が異なる事が議論された。時期や立場に応じた対策を講じることで学業と競技を高いレベルで両立できるのではないか。



第2回学業充実WG「在学中の対策案と日本版NCAAの役割」の議論の整理

在学時における対策の具体化と短期的対策・中長期的対策が討議を通じて提示された。

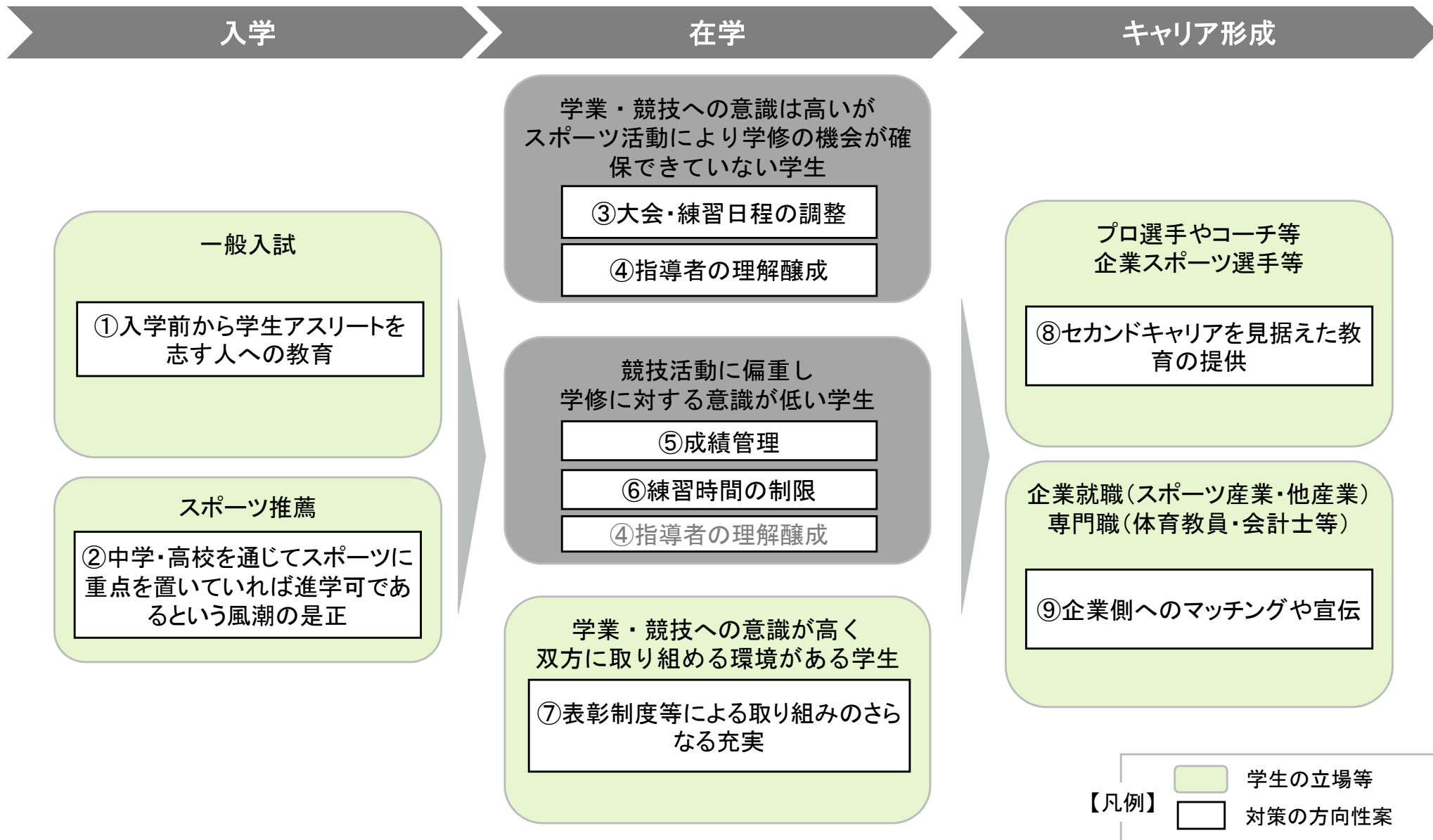


【他、マネジメントWGへの申し送り事項】

- 大学コミュニティ形成や愛校心の醸成について
学内で試合の情報が少なく、学生アスリートと一般学生の交流が少ないので、コミュニティ形成やブランド統一などを通じた愛校心の醸成の手法については検討すべき
- 資金の獲得方法
日本版NCAA自体の活動資金は勿論、各大学でも学内整備等に資金が必要であるため、それぞれが学生スポーツを通じた資金調達方法の確立を目指すべき
- 各大学での整備
日本版NCAAは基準や目安を策定しモニタリングを実施する事が主になると考えるため、規程遵守のためにも各大学側の組織・体制の整備が必要ではないか

第3回学業充実WGの議論の範囲

次回は入学時の対策「リクルートに関する規程・入学前プログラム」とキャリア形成の対策「表彰制度・教育プログラム・キャリアマッチング」等を討議する予定です。



Appendix

第1回学業充実WG(2017/10/13開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリートを取り巻く学業関連の課題は何か

■ 検討の進め方

- ✓ 学業とスポーツの両立を考える学生とスポーツ中心の学生がいるため、それぞれ異なったアプローチが必要
- ✓ 周りの環境、指導者、競技団体(学連)、学生の保護者などについても日本版NCAAがどのように取りまとめて利害調整を行っていくかの検討が必要
- ✓ 認識の違いや大学の機能の違い(体育系の大学かどうか)なども考えて、基盤づくりを行っていくことが必要

■ 学生が学業を修める権利の確保

- ✓ 練習時間の制限や平日の試合開催の回避が課題。個別の大学では対処が難しいが、日本版NCAAができればうまくマネジメントしていくことが可能ではないか
- ✓ 入学の時に、一定程度の教育を行うことを大学が責任をもつというメッセージを出すことが必要
- ✓ 統一的な指導要領を用いて、現場の指導者に睨みをきかせる機能を日本版NCAAは有するのではないか。一方、学校によって方向性や特徴が異なるため、統一的な学業の成績を定めるのは難しいとの意見も

■ 学業とスポーツの両立

- ✓ 「全国アスリート試験」などを実施してクリアした人だけが、NCAAに入れるようにするという提案もある
- ✓ 学生が地域貢献を行う取り組みや、社会で活躍する人の話を聞くなどの教養プログラムの設定が望ましい。単独の大学では実現が難しいため、統括的な組織があるといい
- ✓ 大学の自治と主体性を重視してきたが、重視と放任は異なり、学生の自主性を確保するための時期がきている。非社会的な行為や平日授業を欠席することが学生アスリートに生じており、NCAAはそのような現状を変えていける

■ 大学コミュニティの一体化

- ✓ スポーツ推薦で入学してきた学生が一般学生と交わらないまま卒業し、社会人になっても実業団に入ってしまうため、一般学生は応援する気も起きないことがある
- ✓ 競技以外の授業を通じて、横のつながり(友人)でき、キャリア支援を通じて縦のつながりができる。縦と横の支援をNCAAができることが重要

第1回学業充実WG(2017/10/13開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリートを取り巻く学業関連の課題は何か

■ 学生アスリートの就職

- ✓ 売り手市場であるが、バブルの頃とは体育会のプレミアムが違い、今は落ちてきている。理由は求められる人物像が変わってきており、以前は「会社人」、今は「社会人」*が求められるため
- ✓ 各大学でスキルを育むのは難しいため、NCAAで大学横断的にリアルキャリアを作っていくことが必要

■ 大学部活動と大学の関係

- ✓ 課外の活動であるため自治組織にはなっているが、ほぼ大学側が援助をしているため、お金の動きも大学側が中心となっている
- ✓ 100%保険の加入が義務付けられていることは大学側としてすべてチェックをする
- ✓ 学内にトレーナー組織があり、ここには学生が将来トレーナーを目指したいとか、医学的な知識を持った中で対応、応急処置ができるという、将来ATの資格を取りたいという学生の組織が、各クラブに張り付く仕組みになっているため、救急時も初期的な対応を適切に実施できる体制となっている

全体で討議された内容は、下記4つの観点に集約されると考えられる

部活動と学修機会が重なる傾向

- 講義と練習・試合の重複
- 長期遠征や長時間の練習による学修機会の担保が困難

競技優先傾向

- 入学時から競技優先思考の学生が多く、関係者も当該状況を許す傾向がある
- 競技指導者の中には学修を軽視する人も存在する

社会の求める人材の変化

- 主体的かつリーダーシップを発揮して業務に従事する人物が望まれる傾向にある
- 企業は学生アスリートに上記素養が備わっているという認識が低い

大学コミュニティ愛校心の欠如

- 入学制度、キャンパス、在学中の過ごし方等が学生アスリートと他学生と異なるため応援するという文化が生じにくい

*会社人から社会人へ求められる人物像が変化しているとは、これまでよりも主体的に課題を捉え、リーダーシップを発揮して解決していく人物像が望まれるという意味。

第2回学業充実WG(2017/11/13開催)振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 在学時で必要と思われる対策とは何か

■ 試合開催日程の調整等による学修機会の確保について

➤ 議論の概要

- ✓ 試合の開催日程の調整は、競技横断的に施設の管理を実施し、大学の授業等と調整した上で開催可能であれば非常に有益である。
- ✓ 現状では、土日を中心に試合が組まれているため施設の確保などが困難であるが、授業を避けた平日の夜に実施する事で授業を終えた一般学生の応援等も得やすくなる。また、土日の試合を避けることでプロチームの試合観戦などへ学生が足を運びやすくなるのでスポーツ業界全体に良い循環が生まれると考える。
- ✓ 日程調整で対応しきれない範囲の学修をEラーニング・学修チューター等で補う仕組みの整備が必要であると考え。

➤ 今後議論が必要な項目(案)

- ✓ 現状の競技の試合数の見直し
試合が多いために施設の逼迫や学習機会損失がなされている可能性もあるので、学生のモチベーションを奪わない範囲で、試合数の見直しが必要ではないか。
- ✓ 試合形式の見直しと施設の整備
学生がより多く応援に行き、かつ日程の調整の容易さを考慮した場合、各大学に競技基準に見合い観客席も設置された施設があるべきではないか。また、トーナメント戦以外はHome&Away形式にする等が必要ではないか。現状では各大学の施設の設備面等にも課題があるため将来的に対応すべき項目と考える。
- ✓ Eラーニングのプラットフォームの整備
Eラーニングは学修の手段としては有効ではあるが、各大学で単位認定を行うためには達成項目や要件が細かく設定されている。今後、日本版NCAAがEラーニングを実施する各大学の共通プラットフォームとして機能することを検討してはどうか。

第2回学業充実WG(2017/11/13開催)振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 在学時で必要と思われる対策とは何か

■ 監督・コーチ等指導者の資質・能力向上について

➤ 議論の概要

- ✓ 指導者の資質・能力の向上にはライセンス制度等を用いて競技指導能力に加え、人間形成能力や学修機会への理解等を規定する事が望ましいのではないか。
- ✓ ライセンスを発行し、モニタリングを実施していくことが日本版NCAAの重要な役割になると考えられる。その際、各大学が資格取得実施者を把握・雇用等することが肝要であり、各大学で体育局等の設置が望ましいのではないか。

➤ 今後議論が必要な項目(案)

- ✓ 実施可能な項目からの着手
ライセンス制度や体育局の設置についてはすぐに実行可能とは限らないため、開始当初は、指導者向けセミナーの開催・ハンドブックの整備や、体育局設置の推奨・支援から義務などという段階を踏むべきではないか。
- ✓ 雇用創出のための原資の確保
指導者へライセンスを義務付けるための動機づけには指導者の賃金問題や雇用の問題の解決も必要ではないか。その際、日本版NCAA自体の活動資金以外に各大学で雇用を創出するための原資も必要になるのではないか。

■ 成績管理と成績不振者への対策の実施について

➤ 議論の概要

- ✓ 管理すべき成績は、日本の現状を考慮し、質(GPA)ではなく、卒業に必要な単位数を年間で管理していくことが重要ではないか。
- ✓ 日本版NCAAは成績の基準を示し、各大学は遵守するための管理機能をスポーツ部局の設置などで整備すべきではないか。また、各大学が日本版NCAAに成績の状況を提示する事も義務付けないと成立しないと考える。成績不振者への対応はどのように強制力を日本版NCAAが持つことができるかを考える必要がある。

➤ 今後議論が必要な項目(案)

- ✓ 中長期的な動機づけ
大学在籍期間だけでなく、中学・高校の段階で学業とスポーツを両立させていく理念を浸透させていく必要があるのではないか。
- ✓ 成績不振者への対応
どのように強制力を持たせるかに加え、試合への参加禁止・練習時間の制限、大学での補講などをさらに具体化すべきではないか。

第2回学業充実WG(2017/11/13開催)振り返り③ ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 在学時で必要と思われる対策とは何か

■ 練習時間の制限について

➢ 議論の概要

- ✓ 指導者の資質・能力の向上が必須であり、授業と練習が重ならない工夫や意識を醸成する事が重要である。
- ✓ 一方的に時間制限をするのは学生の動機づけにならないため、成績不振者への対応に限るなど一種の制約とする方が望ましいのではないかと考える。もし時間制限を設ける場合には、米国NCAAは過剰な練習への対策と自宅学習を含めた学修時間の確保のために練習時間の制限を設けているが日本版の制限根拠を示す必要があるのではないかと考える。

➢ 今後議論が必要な項目(案)

- ✓ 制限時間の根拠の調査
大学で単位を取得するために必要な学習時間を踏まえて確保可能な練習時間を算出することなどを検討すべきではないかと考える。

■ 日本版NCAAの求められる役割と各大学での実施項目について

➢ 議論の概要

- ✓ 全体として、日本版NCAAの役割は基準や目安を策定しモニタリングを実施する事ではないかと考える。その上で、各大学機関が成績・練習時間などを管理徹底し具体化していくことが求められるのではないかと考える。
- ✓ 上記管理を実行する上で、大学側への強制力・メリットの訴求をNCAAがすべきであり、大学側は管理するための組織整備が必要ではないかと考える。
- ✓ 他に、学連・NF・OBOG会への理解醸成も今後は必要であると考えられ、日本版NCAA創世期については、既存の知見やノウハウをどう活用していくかが重要ではないかと考える。